

会 議 録

会議の名称	第7回上尾・伊奈ごみ処理広域化検討会議	
開催日時	令和4年2月8日(火) 10:00～	
開催場所	上尾市文化センター301号室	
議長(委員長・会長)氏名	荒井喜久雄	
出席者(委員)氏名	荒井、川寄、長谷川、長塚、安藤、長澤、佐々木、吉岡、波多野	
欠席者(委員)氏名	細田、市川、中村	
事務局(庶務担当)	(事務局:伊奈町) 藤村、大津、大野、今、斎藤、坂上 (事務局:上尾市) 堀口、荒井、佐藤、田中、山内、重田 (コンサル:株式会社 環境技術研究所) 阪根	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議題 建議書(案)について 4 その他 5 閉 会	承諾
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 1名
会議資料	次第 建議書(案) ごみ分別・収集体制(案) 参考資料 上尾・伊奈広域ごみ処理基本計画(案)に関する意見及び回答書	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">R4年3月16日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u> 荒井喜久雄 </u></p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	1. 開会
事務局	2. 会長あいさつ
会長	3. 議題 建議書（案）について、事務局より説明。
委員	建議書案を当検討会議の案として、伊奈町長に建議してよいか。
委員	（異議なし）
事務局	1つだけ確認しておきたい。 19 ページの説明会の実施について、自治会長、区長、環境美化推進員などを対象としてと書いてあるが、一般住民向けには説明会は行わないのか。
事務局	今後周知状況等を踏まえまして、必要であれば説明会も取り入れていく予定であるため、今後ごみ処理施設整備計画の基本構想の中でも検討していく。
会長	他に特にないようであれば、建議書案を事務局の修正のほか、ただいまの説明会の開催について、この文章に含みを持たせつつ、当検討会議案として伊奈町長へ建議する。
事務局	4. その他について 1 点目 A 3 版の参考資料について説明。 2 点目今後の検討会議については、会長から伊奈町長への建議をもって、ごみの分別・収集体制案の作成に係る当会議の所掌事務は終了することから、両市町では6月議会に会議の廃止を上程し、その後、埼玉県にその旨、届け出る予定。
会長	基本構想はスケジュール的にいつからなのか。
事務局	施設整備基本構想・基本計画を令和5年からの3か年計画を予定している。
委員	プラスチックをとにかく資源化していく技術というのは、今どういう状況にあるのか。
事務局	令和4年4月からプラスチックの資源循環促進法が策定される予定で、プラスチックの分別について、国もどういう技術があるのかというのを検討していくのではないかと考えている。そのため、私たちが把握できていない部分もあるため、国の動向を確認しながら、並行して検討していく。

副会長	<p>日本は一時期プラスチックをエネルギーにする技術を検討していたが、非常にお金がかかることからやめていた経緯がある。そのため、ある程度きれいなプラスチックであれば資源化し、それ以外のものは焼却していたところである。</p> <p>来年度から新たな実証実験を行う予定で、その際にどのようにプラスチック製品を集めるかというのも検討事項となっている。また、ポリエチレン、PSの樹脂を集めてPSの原料として使えるようなプラントを作る計画が県外にあるため、それらを集める検証の話もでてきている。</p> <p>一括回収はやはり難しい部分もあると考えており、ある程度分別すること、また、ある程度きれいにすることが重要であるため、今後の検証がどうなるか注視している。</p>
委員	<p>単なる分別ではなく、きれいに分別する可能性が高いということか。</p>
副会長	<p>はい。そのため、プラスチックをごみではなく、あくまで資源ということをはっきりさせなくてはならない。そのためには、教育から必要になると考えている。</p>
委員	<p>きれいに分別することは、住民にとって相当な負担となる。その負担を軽減するためには、分別しやすいものを使ってほしいということになる。</p>
副会長	<p>はい。あとはどのレベルまで分別するかが課題と考えている。すごく細かいものまで分別されている方から、汚いものをそのまま入れている方まで様々な方がいる。そのため、あまり細かくせず、ある程度きれいなものだったら、まとめましょうといった徹底をどうやっていくかが重要である。</p>
会長	<p>現在、容器包装リサイクル法が定着し、ある程度は機能しているが、製品プラスチックについては、リサイクルが進まなかった経緯がある。そのため、今回のプラスチック資源循環促進法により、リサイクルしようという動きが出てきている。確かに、昔から色々な技術があるが、コスト面から実用化にはいたらなかった。今、それに対して使える技術がないかを探っている状態である。</p> <p>そのため、約1年後に施設整備構想・計画を策定する際には使える技術・使えない技術が見えてくると思うので、それをうまく取り入れて上尾・伊奈にとってベストな技術を採用するのが良いと考えている。</p> <p>また、プラスチックがCO2の排出源になっていると言われている。2050年のカーボンニュートラルに向けて、プラスチックを資源として循環させようと国も動いており、自治体も動き始めているところもあるので、地域に合ったやり方で、伊奈・上尾でも検討していくのが良いと思う。</p>
副会長	<p>閉会のあいさつ</p> <p>5. 閉会</p>